

墓地の立地特性と景観構造 —東京都港区赤坂・麻布台地を対象として—

宇野研究室

4108049 佐藤 岳志

1. 研究背景

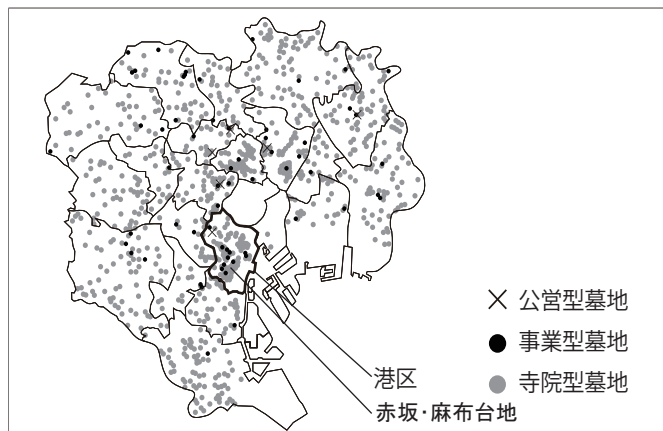
東日本大震災は、私たちにとって自然の威力を感じさせ、都市という人工物の脆弱さを示す事件であった。本来私たちを囲む自然とは恵みと災厄の両面を兼ね備えたものである。震災によって自分たちが都市に守られていることが幻想であると分かった今、今一度自分たちの暮らしの中のネガティブなものに目を向けていく必要があるのではないだろうか。本論では都市の負の要素である墓地に視点を向ける。

2. 研究目的

死を司る墓地が東京にとってどのような立地と景観を構成しているか調査することによって東京の死生観の一端を探る。

3. 研究対象

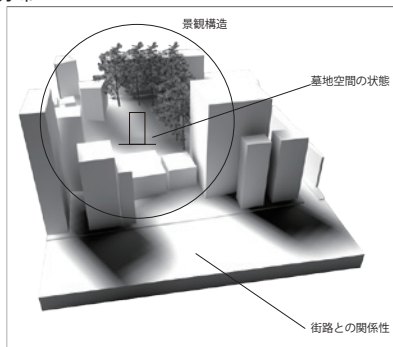
港区には 202 ヶ所もの墓地が集中していて、「公営型」、「事業型」、「寺院型」の墓地が揃っている（図 1）^{註 1)}。地勢的に台地と低地を含んだバリエーションに富んだ地域のひとつであることから港区赤坂・麻布台地に立地する 45 ヶ所の墓地を選択対象とした。



▲図 1 東京都における墓地の分布

4. 研究方法

対象の墓地を地形、大きさ・道路との関係から立地特性について分類し、加えてそれぞれの景観構造を考察する（図 2）。それにより、港区における墓地の形成する景観を類型化する。



▲図 2 分析対象の特性

5. 墓地、墓園の法的定義

5-1. 墓地

「墓地」とは墳墓を設けるために墓地として都道府県知事の許可を受けた区域をいう。またこの「墳墓」とは、死体を埋葬し、又は焼骨を埋蔵する施設をいう。（墓地、

埋葬等に関する法律より）

5-2. 墓園

墓園は墳墓を設けるために都道府県知事の許可を受けた区域。都市計画決定により位置を定めた都市施設であり、主として墓地の設置の用に供することを目的として設置された都市公園のことを示す。

6. 分析対象の立地特性の調査

6-1. 地形

地形に関して以下の 2 つを調査する。

- ① 標高
- ② 敷地内高低差

6-2. 道路との関係

墓地が道路に隣接しているかどうかを調査する（「道路から墓地に直接アプローチできるかどうか」ではない）。

① 道路に隣接している

墓地の境界が一部道路に面している場合。（街区における「ガワ」に立地）

② 道路に隣接していない

墓地の境界が全く道路に面していない場合。（街区における「アンコ」に立地）

6-3. 墓地の緑地

墓地の緑地の状態が墓地空間の景観を大きく左右している。そのため墓地の緑地の状態を、以下の 4 つに分類する。基本的に①の緑地環境が最も悪く、④が最も良い。

① 緑地無し

墓地内部に緑が見られない場合。

② 内包

墓地の境界部には緑が存在しないが、墓地内に緑地がまばらに見られる場合。

③ 外接

墓地の境界部で一辺以上緑が接している場合。

④ 外接かつ内包

墓地の境界部において、一辺以上緑が接しており、かつ墓地内にも緑が見られる場合。

6-4. 墓地へのアプローチ

墓地は死者を弔う空間であり、非日常的な場所である。そのため日常から非日常へ切り替えを行うアプローチの性質は墓地空間の性質にも影響を与えるものである。寺の入り口から墓地への入り方を、緑が整備されているか否かを基準に以下の 2 つに分類する。

① 墓地へのアプローチに緑が整備されている場合

② 墓地へのアプローチに緑が整備されていない場合

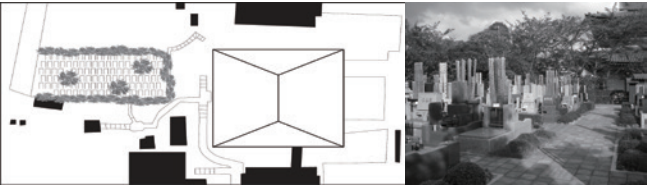
7. 立地特性から見る墓地の景観構造

調査対象の立地特性を表 1 にまとめた。表 1 を分析することで次の 5 タイプに分類できた。その景観構造を次に示す。

7-1. タイプ A

1000 m²以上のもの

このタイプは6例あったが、その全てにおいて「緑地の状態が④」で「墓地へのアプローチに緑」があった。面積が非常に大きいと墓地内及びその周辺の緑地が豊かであることが分かった。墓石の間隔が多く、墓地内の空間は故人と向き合う場所として良質なものとなっている。

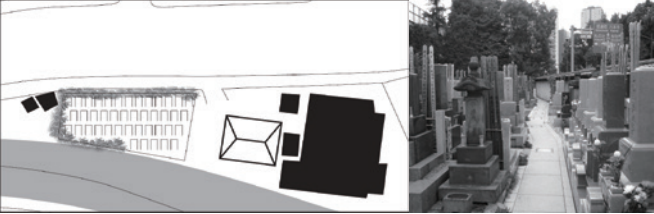


▲図4 タイプAの典型的な立地特性と景観

7-2. タイプB

「面積が1000㎡未満」で「道路に隣接」しているもの

このタイプは9例あり、2例を除いて「緑地の状態が③または④」となっており墓地の外縁部の一辺以上が緑でおおわれている。道路に隣接しているという環境の悪さを補うため緑で囲っていると思われるが、それが結果として墓地内部の景観に良い影響を与えている。

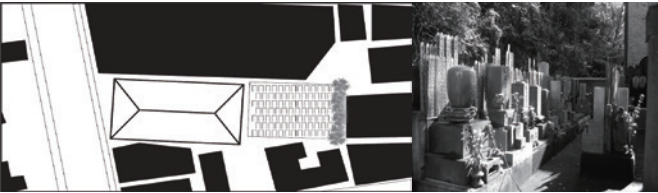


▲図5 タイプBの典型的な立地特性と景観

7-3. タイプC

「道路に隣接していない」かつ「緑の状態が③または④」のもの

墓地が道路に隣接せず奥まった場所にあるが、墓地内の緑が豊かなタイプ。建物に囲まれることによる息苦しさ豊かな緑によって緩和され、むしろ静謐な空間となっている。



▲図6 タイプCの典型的な立地特性と景観構造

▼表1 調査結果

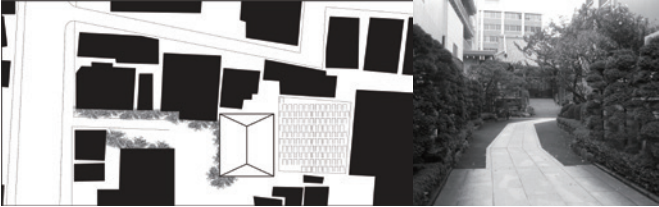
No.	名称	住所(主に管理者事務所所在地)	タイプ	標高 (max)[m]	標高 (min)[m]	高低差 (min)[m]	道路に隣接	緑地の状態	墓地へのアプローチの緑の有無	面積 [㎡]	タイプ	No.	名称	住所(主に管理者事務所所在地)	タイプ	標高 (max)[m]	標高 (min)[m]	高低差 (min)[m]	道路に隣接	緑地の状態	墓地へのアプローチの緑の有無	面積 [㎡]	タイプ
1	金地院	芝公園3-5-4	寺院型	20	20	0	○	④	○	4800	A	24	俊朝寺	虎ノ門3-20-1	寺院型	12	12	0	×	③	○	170	C
2	青松寺	愛宕2-4-7	寺院型	25	25	0	×	④	○	4760	A	25	米開院	虎ノ門3-10-10	寺院型	8	8	0	×	③	○	120	C
3	西蔵寺	芝2-25-6	寺院型	3	3	0	×	④	○	2070	A	26	宗光寺	芝4-6-21	事業型	3	3	0	×	③	×	600	C
4	光明寺墓地	虎ノ門3-25-1	寺院型	12	19	7	×	④	○	1400	A	27	安楽寺	芝公園2-3-2	寺院型	3	3	0	×	③	×	530	C
5	増上院墓地	芝公園4-7-35	寺院型	13	13	0	○	④	○	1350	A	28	栄寿院	虎ノ門3-10-13	寺院型	8	8	0	×	③	×	96	C
6	龍原寺	三田1-13-11	寺院型	13	16	3	○	④	○	1160	A	29	浄蓮寺	芝公園2-3-5	寺院型	3	3	0	×	②	○	220	D
7	天光院墓地	芝公園1-3-16	寺院型	4	4	0	○	④	○	790	B	30	教賢寺	三田1-12-11	寺院型	14	14	0	×	②	○	112	D
8	宗教法人安蓮社	芝公園3-1-13	寺院型	6	6	0	○	④	×	160	B	31	考寿寺	愛宕2-8-6	寺院型	22	22	0	×	①	○	620	D
9	妙定院	芝公園4-9-8	寺院型	5	5	0	○	③	○	760	B	32	成覚寺墓地	三田3-9-9	寺院型	6	9	3	×	①	○	500	D
10	円徳寺	三田1-11-2	寺院型	6	6	0	○	③	○	540	B	33	長久寺	三田1-11-31	寺院型	8	8	0	×	①	○	430	D
11	当光寺	三田1-12-11	寺院型	13	13	0	○	③	○	360	B	34	花岳院	芝公園1-7-15	寺院型	3	3	0	×	①	○	420	D
12	円珠寺	芝1-13-6	寺院型	4	4	0	○	③	○	350	B	35	法泉寺	芝2-30-8	寺院型	3	3	0	×	①	○	280	D
13	宗照院	芝公園1-8-9	寺院型	3	3	0	○	③	○	150	B	36	栄栄寺	虎ノ門3-11-7	寺院型	7	7	0	×	①	○	230	D
14	正念寺	芝4-5-4	寺院型	3	3	0	○	③	○	160	B	37	勤智院墓地	芝公園2-2-13	寺院型	3	3	0	×	①	○	150	D
15	勤勝寺	芝1-9-11	寺院型	3	3	0	○	①	×	56	B	38	光岳院	虎ノ門3-11-5	寺院型	7	7	0	×	①	○	100	D
16	蓮樂寺	三田3-4-7	寺院型	6	6	0	×	④	○	890	C	39	光宝院	芝公園3-5-24	寺院型	3	3	0	×	①	×	840	D
17	法音寺	芝4-6-17	寺院型	3	3	0	×	④	○	520	C	40	安楽寺墓地	芝2-28-4	寺院型	3	3	0	×	①	×	530	E
18	正伝寺	芝1-12-12	寺院型	3	3	0	×	④	×	400	C	41	安楽寺	芝1-12-18	寺院型	3	3	0	×	①	×	260	E
19	傳賢院	愛宕2-3-4	寺院型	6	6	0	×	③	○	470	C	42	了善寺	芝1-13-22	寺院型	4	4	0	×	①	×	240	E
20	専光寺	虎ノ門3-25-17	寺院型	13	13	0	×	③	○	400	C	43	法門寺	芝1-9-14	寺院型	3	3	0	×	①	×	144	E
21	天福院	芝公園2-2-3	寺院型	3	3	0	×	③	○	400	C	44	経覚寺	芝1-12-20	寺院型	3	3	0	×	①	×	85	E
22	光園寺	虎ノ門3-23-10	寺院型	17	17	0	×	③	○	300	C	45	向陽寺	芝1-9-10	寺院型	3	3	0	×	①	×	52	E
23	興明院	虎ノ門3-10-8	寺院型	8	8	0	×	③	○	280	C												

脚注：1) 墓地の分類及びその分布図は、川添善氏による「首都圏における事業型墓地開発の実態とその対策」を参照としている。川添氏はその中で墓地を公営型、事業型、寺院型の3つに大別しており、本論の墓地の分類もそれに基づいている。公営型墓地は都道府県市町村の地方自治体が管理している墓地であり、事業型公益法人、宗教法人が経営を行う。事業型墓地の購入は主旨宗派関係なく行われ、購入者は檀家になる必要はない。寺院型墓地は寺の境内もしくは寺に隣接している墓地であり、墓所購入時には檀家になる必要がある。

7-4. タイプD

「道路に隣接していない」かつ「緑の状態が①または②」で「墓地へのアプローチに緑地がある」もの

墓地は奥まった場所にあるうえ、緑がなく殺風景となっている。しかし、寺の入り口から墓地へのアプローチに緑地があり、それが日常と非日常の切り替えを行う装置として作用する。

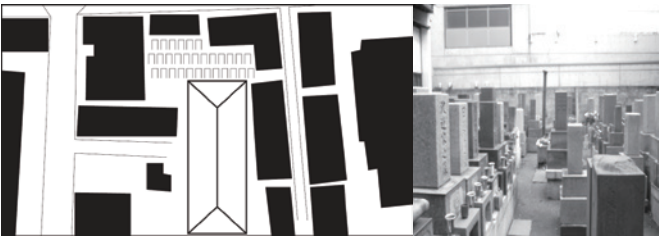


▲図7 タイプEの典型的な立地特性と景観構造

7-5. タイプE

「緑の状態が①」で「墓地へのアプローチに緑地が整備されていない」もの

緑が全くなく、あまり手入れがされていないものが多く、非常に殺風景となっている。



▲図7 タイプDの典型的な立地特性と景観

8. 結論

本論で得た知見を次に示す。

- ①墓地が形成する代表的な景観構造は5つに分類できた。
- ②大規模で緑の多いタイプや、奥まった場所にありながら豊かな緑が息苦しさを緩和しているタイプや、アプローチ空間が非日常への切り替え装置になっているタイプ等があった。
- ③墓地の外接された境界は、必ず距離をもったアプローチを有するか緑により外界と隔てられており、周囲と隔絶された空間となっている。

9. 今後の課題

傾斜地など、地形との対応にも目をむけていきたい。